

シグマ研究委員会
63年度第5回運営委員会議事録（案）

日 時： 昭和63年12月16日（金） 13:30～17:30
場 所： 日本原子力研究所 本部 第3会議室
出席者： 北沢（東工大）、瑞慶覧（日立）、中嶋（法政大）、
村田（NAIG）、五十嵐、長谷川、水本（原研）
幹 事 ： 菊池、中川（原研）
オブザーバー： 浅見（NEDAC）、飯島（NAIG）、中沢（東大）、
吉田（NAIG）

配布資料

1. 63年度第4回運営委員会議事録（案）と Action list
2. 事務的スケジュール
3. シグマ委員会名簿
4. シグマ委員会63年度旅費使用予定（12月以降）
5. Formal Documents from ITER Team at Garching (ITER-021, -022)
6. NEANDC Standards Subcommittee Report to the 27th NEANDC Meeting
7. データ等提供基準検討小委員会からの答申書
8. JENDL積分評価WGドシメトリーSWG議事録（63年11月29日）
9. 核種生成量評価WGの活動
10. 崩壊熱評価WG作業報告および作業計画
11. 特殊目的核データWG64年度計画

議 事

1. 前回議事録確認

前回（10月21日）の議事録（配布資料1）を確認した。

2. 事務局報告

1) 宿題事項の処理報告

Action list (配布資料1) の処理状況を報告した。

№ 2 (五十嵐) : 断面積の単位「バーン」の必要性を IUPAP の委員山口氏に手紙で伝えた。

№ 4 (事務局) : 次回の核データ評価の国際協力に関するタスクフォースには五十嵐、中川両氏が出席する予定である。

2) 事務的スケジュールについて

配布資料2により、63年度内の事務的スケジュール(シグマ委員発令のための名簿の見直し、実行予算、概算要求等)を五十嵐氏が説明した。

3. WG開催予定と旅費について

前回の Action № 1により作成した63年度旅費使用予定(配布資料4)を中川氏が説明した。

4. 1988年核データ研究会について

瑞慶覧氏が研究会の反省点等を述べた。今回の研究会出席者はほぼ昨年並の106名だった。

「今年はポスターセッションが充実していた。評価や測定の話しを全部ポスターセッションにしたのは問題であり、まとまった話しは口頭発表とした方が良かった」等の意見が出された。

次回の運営委員会までに研究会の反省点を瑞慶覧氏がまとめることとした。また、次回に1989年核データ研究会の準備委員を決めることとした。

5. その他の報告事項

1) FENDLに対するITER側の反応について配布資料5を五十嵐氏が説明した。

2) NEANDC Standards Subcommittee の議事録(配布資料6)を五十嵐氏が説明した。

3) 次の核データ国際会議は1991年5月13日～17日にユーリッヒ(西ドイツ)で行うことが決定したことを五十嵐氏が報告した。

6. データ等の提供基準について

データ等提供基準検討小委員会の答申書（配布資料7）を小委員会委員長浅見氏が説明した。

討議の結果、答申書中の（その他のサービス）の部分を修正して答申を受理することとした。

7. 原子力学会年会特別会合のテーマについて

（核データ・炉物理）合同特別会合のテーマについて中川氏が案を提供し検討した。その結果、

JASPER計画の現状（大谷）

JEFの現状（中島）

ガンマ線 Build-up factor の計算（播磨）

の中から2件を選び、討論時間を多くすることとした。

8. 専門部会本年度活動と来年度計画

1) 炉定数専門部会

ドシメトリーSWG

11月29日の議事録（配布資料8）を中沢氏が説明した。JENDL-3をもとにドシメトリーファイルを編集し、その積分テストを行っている。来年度はドシメトリーファイルを完成させるための作業を継続する。

2) 核構造・崩壊データ専門部会

核種生成量評価WG

配布資料9を中嶋氏が説明した。一群断面積の作成、JDDLの改良、 (α, n) 反応データの整備、COMRADの改良、燃焼データの整備を行っており、来年度も継続する。特に一群断面積の整備を急ぐことにしている。

崩壊熱評価WG

配布資料10を吉田氏が説明した。JNDC FP崩壊データファイル第2版を finalize し、崩壊熱総和計算の誤差評価、崩壊熱曲線のフィッティング式の作成を行った。来年度は今年度の作業を継続し、報告書の作成を行う。誤差評価については W.B. Wilson 氏 (LANL) を原研に招待して作業を進める可能性もある。この可能性について吉

田氏が片倉氏（LANL）に手紙を出し確認することとした。

3) 核データ専門部会

特殊目的核データWG

配布資料11を飯島氏が説明した。光核反応、PKA、 (α, n) 反応の3つのSWGに分かれて作業を行っており、それぞれデータの調査、評価手法の検討等を行ってきた。各SWGの来年度計画についても資料11で説明した。

評価活動調査タスクフォース

水本氏が中間報告を行った。タスクフォースメンバーへのアンケート調査を行い、評価活動の課題をまとめた。それをもとに12月14日に第1回会合を開いた。次回は2月中旬に会合を開き、来年度の活動体制を議論し、2月中に答申をまとめたい。

9. 核データ評価の国際協力について

タスクフォースの会合を2回開き、核データ評価の国際協力について議論した。議論の内容について水本氏が紹介した。今年度中に答申を出す予定である。

10. 議事録の作成と配布について

現在滞っているシグマ委員会の各種会合の議事録作成と配布について議論し、次のことを確認した。

- 記録の意味で議事録の保管が必要なのでワープロで清書した議事録を核データセンターに提出してもらう。
- 核データニュースで希望者にはコピーを配布することをアナウンスする。
- 運営委員会と本委員会の議事録は全員に配布する。
- グループリーダーには全WGの議事録を配布する。

11. その他

次回は1月20日（金）とし、WG活動の報告は次のグループにお願いすることにした。

中・重核データSWG（水本氏）、核融合核データWG（神田氏）、炉定数専門部会（長谷川氏）

Action List

No	担当者	内 容	期 限
1	各委員	委員名簿を検討し、変更点を事務局に連絡する。	1月20日
2	瑞慶覧	核データ研究会の反省点等をまとめる。	次回
3	中川	原子力学会の（核データ・炉物理）合同特別会合のプログラムを決める。	至急
4	吉田	片倉氏（LANL）に手紙を出し、W.B. Wilson氏が原研に来る可能性を打診する。	-